

2007.12  
第3号

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

# 以森伝心



特集

伝統と森

大覚寺大沢池



特集  
伝統と森

森とつながる

広がるモデルフォレスト運動

森づくり活動

緑の少年団交流集会

見上げれば——京都の森ナビゲーション  
消える？国産マツタケ

活動報告  
コラム



# 特集 伝統と森

残していきたい ニッポンノケシキ

嵯峨御流華道芸術学院

せきなだ ともほ

関灘知甫氏 辻井ミカ氏 に聞く

伝統と森にはどのような関係があるのでしょうか。1200年の華道の伝統を受け継ぐ、嵯峨御流華道芸術学院学院長の関灘知甫氏と副学院長の辻井ミカ氏にお話を伺いました。

美しい森、野、川、海、空。私たち日本人にとってごく当たり前、心の奥にある景色。この大切さに気づいた人々が、花をいけることを通じて自然の風景を守り、伝えていくために立ち上がりました。



いけばな嵯峨御流の伝統的な型である、大覚寺大沢池の景色をいけた「塵湖の景」

## 景色が無ければいけない

私たち「いけばな嵯峨御流」のいけ方の一つに、「景色いけ」というものがあります。自然を水の流れに沿って、「深山の景」「森林の景」「野辺の景」「池水の景」「沼沢の景」「河川の景」「海浜の景」という7つの景色に区切り、それぞれをいけばなで表現するんです。水は、森から川へ、川から海へ、海から雨となって再び森へ帰るので、7つの景色はどれも水を通してつながっています。どの景色も単独では存在せずに、自然の流れの中にあり、一つでも途切れたらいずれも存在できないという考え方です。

こうした景色いけも、地球温暖化問題や環境破壊によって景色が失われてしまえば、いけられなくなることに、私たちは気づきました。そして環境問題に対して、華道家として何ができるのかを考えたときに、いけばなを通じて、自然の大切さを訴えていくことができるのではないかと思ったのです。そして、2年前に「華道家行動宣言」を掲げ、自然の原風景や人々の暮らしの営みによって生まれた素晴らしい景観を守り伝えることを宣言し、シンポジウムなどを開催してきました。



関灘知甫氏（右）と辻井ミカ氏（左）  
「年齢国籍を問わず皆さん楽しんでおられました。私たちの励みになります」

## 嵯峨御流いけばな展 ニッポンノケシキ

10月24日から3日間で10万人が来場しました。京都駅ビル各所に全国の嵯峨御流の司所がいけた、残したい原風景のいけばなが展示された他、音楽といけばなのコラボレーション、いけばなワークショップが行われ、

期間中駅ビルはいけばな一色で彩られました。最終日の「京都発！世界の環境を語る」では、C.W.ニコル氏（作家、英国出身）、山折哲雄氏（宗教学者）、浅岡美恵氏（当協会理事）が、環境に寄せる思いを語りました。



参加者「残したい原風景をいけるなんて、はじめての取組じゃないですか。素晴らしい。」



## 「日本をいける」プロジェクト

全国各地で行ってきた活動を踏襲、「一守り伝えたい風景、取り戻したい心象風景—嵯峨御流いけばな展 ニッポンノケシキ」を開催しました。会場では、全国の景色いけの展示や、いけばなワークショップなど、普段いけばなに親しんでいない人でも、いけばなの素晴らしさに触れ、景色の大切さを体験できる内容になったと思います。

このイベントでは、いけばなを「言いごと」の神にはめずに、いけばなを通じて社会へ広くメッセージを伝えていくことに挑戦しました。伝統を伝えていくことも重要ですが、それを備に時代ごとに変化する社会の要求に応じていくことができなければ、文化を未来へ残していくことはできませんから、今回のイベントは、環境をテーマに、いけばなの流儀に留まらず、華道自体の発展を目指して臨みました。

私たちに、北海道から沖縄まで、全国に120の司所があり、38万人の華道家がいます。地元にはかない自慢の風景を思い思いにいけよう、と呼びかけると、華道家たちは自分の一番伝えたい風景を、改めて探して回りました。すると、心の中にあったはずの風景が、実際に探してみると失われている、という声があちこちから聞こえました。今回の取組で、華道家たち自身が改めて地域の自然を見つめ直すことになったみたいです。

## 自然と人とは通ういけばな

嵯峨天皇は、嵯峨の地をたいへんに愛されてここに離宮をお遊りになりました。その庭に造られたのが大沢池で、日本最古の庭池です。中国の洞庭湖に見立てて造られたので「庭湖」とも呼ばれています。庭湖の中にある菊ヶ島に咲く菊の花を手折られ、瓶にお挿しになったのが嵯峨御流の始まりです。

つまり、自然の秩序を空間に持ち込むことで、自然と一体となった暮らしが実現したわけです。花をいけるといことは、自然と一体となること。自然を取りこみ、見立て、自分の生活空間に置くことで、自然と共生し、ありがたさや安心感が得られます。

私たちの取組を通じて、環境問題に少しでも関心を持ってもらえれば、本当にうれしく思います。仮に言葉が無くても、いけばなを通じて自分の大切なものを人に伝えることができます。「IKIBANA」は、今や海外でも通用する言葉になっています。世界中で愛され、その国の風景を見直すきっかけとして、国の環境保護プログラムにも採用されているほどです。いけばなを通じて、自然を大切にする輪が、いけばな嵯峨御流の始まりの地であり、また京都鑑定書が生まれた、伝統文化の中心でもある、ここ京都から世界へと広がっていくことを願っています。



琵琶の音色と花のコラボレーション

ニコル氏「日本の風景は、私たちの民族が失ったものだった」  
山折氏「『自然を主人公に』という思想が日本文化の特色」  
渡岡氏「温暖化が京都の美しい四季を変えてしまう」



「天橋立」の景色いけ



「天王山と三川合流」の景色いけ

いけばなワークショップ参加者「どこがいいかわからず」「普段なかなか花に触れないけど楽しい」





(宇治田原町)

(宇治田原町)



(中丹)

## きょうとさわやかな自然の森 (宇治田原町)

協力企業

コカ・コーラウエストホールディングス(株)

10月27日、コカ・コーラ社の社員やその家族など64名が集い記念イベントを行いました。朝10時から始まり、活動のシンボルとなる看板の除幕式のあと、参加者で記念植樹としてイロハモミジ8本を植えました。その後、3班に分かれてヒノキの枝打ち体験をしたところでお昼休憩。午後からは、どんぐりの苗木づくりや御林山三角点周辺の整備を行いました。

### 中丹ブロック

①10月28日 ②大江山(福知山市) ③65名

遅れることなく全員集合。開会式まで時間を持て余した子供たちは、スタッフが準備していた笹茶用の笹焙じに参加しました。午前中は、火おこし体験、森林探検クロスカントリーをしました。森林探検では、二瀬川渓流沿いの旧宮津街道を歩き、木のことや地域のことに関する雑問・奇問に挑戦しました。昼食時には笹茶と煎製が揃う舞われ、笹茶ははじめ、「苦い」「牧場の臭いがする」など散々な様子でしたが、「だんだんおいしくなる」「くせになる」とおかわりする子もいました。午後からは、丸太切り鑑介、種子模型飛ばし、森の恵みの万華鏡づくりなど盛り沢山の内容でした。子供たちは、

「探検が楽しかった」「自己紹介の時はぎこちなかったけど、一緒にいてたら仲良くなった」とそれぞれ楽しめた様子でした。

## 森づくり活動

—協定を締結した地域の今—

企業が自治体と協定を結び、地域の森づくりに参加する活動が、各地で広がっています。地域の森の状況に合わせて、地元と協力し合いながら、着々と取組が進んでいます。

## 毛原地区(福知山市)

協力企業

パナソニック・フォトライティング(株)

エスペック(株)

8月6日、地元自治会、行政などと第1回毛原地域利用保全活動検討会を開きました。検討会では、「大江山の自然を観察できる場所とする」「ツツジの森を蘇らせる」などの今後の方針が議論されました。活動は8月から毎月1回行い、拠点となる小屋の建設や歩道の草刈り、ツツジの森予定地の除伐などを行うとともに、地元の方とバーベキューをするなどの交流も行っています。

森とつながる

広がる

モデルフォ

## 神前地区(亀岡市)

協力企業 (株)村田製作所

11月8日、社員とその家族を対象に、第1回イベントを開催しました。秋晴れの中、参加者総勢約70名で森林の見学ツアーを行い、全身でマイナスイオンを感じるなど、癒しのひとときを得ることができました。見学ツアーの後は、参加者一同エプロン姿に変身し、生地からこねる本格的なピザづくりに挑戦。青空の下、石釜で焼いたピザの味はこれまた格別でした。午後からは地元神前区のお祭りにムラタセイサク君も合流し、地元の皆さんと楽しいひとときを過ごせました。



(福知山市)



(福知山市)



(亀岡市)





(中丹)



(丹後)



(山城)

丹後ブロック

①8月20～21日

②丹後海と星の見える丘公園（宮津市）③42名

初日は、里山に関する課題を解きながら公園内の散策を行いました。散策後、団員は薪を使って飯ごうで米を炊き、炊きあがった真っ白なご飯を見て歓声を上げていました。夜は、丹後地域の自然について話を聞いた後、夜の里山を散策し、昼とは異なる夜の山を体感しました。翌日は、波見川の水路・井堰や、水辺の生物について学びました。

山城ブロック

①8月27日 ②喜撰山揚水発電所他（宇治市）③42名

午前は、発電所を見学。団員は山の中に現れた人造湖と石が整然と並べられたロックフィルダム of の美しさと大きさにびっくり。揚水発電所は、夜間の余剰電力で下部貯水池水を汲み上げ、電力不足のときに一気に放流して電力を補います。下部貯水池の貯水量を通常の電力量で計画できるため、地形の改変を小さくとどめ、環境に優しい発電所と言えます。団員は、その仕組みにも大変驚いたようで、熱心に質問をしていました。

午後は、活動紹介の後、野草の標本に触れたり特徴や効能のヒントを聞いて、そのお茶を試飲し、オオバコ、ゲンノショウコなどの名前を当てました。お茶を飲む時は、「苦い」「おいしい」「おかわり！」と大変な騒ぎになり、楽しく自然を学び、交流を深めることができました。

緑の少年団 交流集会

緑の少年団は、子供たちが自然とふれあうことにより、緑やふるさとを愛する心豊かな人間に育っていくことを目的に活動する団体です。府内各地域で行われた交流集会の模様を紹介します。

①開催日 ②主な開催場所 ③参加人数

京都・乙訓ブロック

①10月14日（日）

②京北森林公園（京都市）③45名

午前、きのこアドバイザーの藤田徹氏を講師に招き、森林公園内に自生するきのこの採取と同定を行いました。80種類以上のきのこが見つかり、中には形が変わったものや大きなきのこがあり、子供たちの歓声に包まれました。午後は、公園内の見学を行い、マイタケやシイタケの発生状況について説明を受け、子供たちはシイタケの栽培方法について質問するなど、熱心に学習していました。天候にも恵まれ、参加者は互いに交流を図りながら、秋の京北を楽しく賑やかに過ごすことができました。

南丹ブロック

①11月10日 ②府民の森ひよし（南丹市）③48人

午前、炭焼き窯から炭を出し、郷土資料館でおくどさん（かまど）でごはんを炊く様子など昔の暮らしを学習しました。お昼には、実際に炭でバーベキューをしたりかまどでごはんを炊いて、昔ながらのご飯の味わいを楽しみました。

午後は、森の中に入り、一番大きな葉っぱを探せなどのミッションを遂行しました。最後に、荷造りひものかご作りを行い、かごに出来たての炭を入れて、笑顔で府民の森ひよしを後にしました。



(京都・乙訓)



(中丹)



(丹)



# vol.3 消える？ 国産マツタケ

## 見上げれば——京都の森ナビゲーション

(株) 京都吉兆 徳岡孝二 代表取締役社長

マツタケが採れなくなったという話をよく聞きます。国内のマツタケ生産量をみると、昭和30年代前半までは全国で年間5,000トン程度、京都府で500トン程度の生産量がありましたが、平成18年は全国で58.2トン、京都府で3.8トンにまで落ち込んでいます。このまま推移するといずれマツタケが日本で採れなくなる日が来るかも知れません。

日本料理店を営む(株) 京都吉兆の徳岡孝二代表取締役社長に、日本の食文化に携わる立場から消えゆくマツタケについてお話しをお伺いしました。



### ざくざく採れたマツタケ

昔は嵐山でも、清滝でも、もっとマツタケがたくさん出ていたんです。うちは清滝に山を持っているんですけど、20年前はけっこうマツタケがたくさん採れました。嵐山・高雄パークウェイという道ができて、そのパークウェイを走っていたら、マツタケが、あっ、あそこにもある、ここにもあるというふうなことだったんです。

園部にうちがお願いした山がありまして、昼1時半ぐらいにマツタケがびっしり生えていました。そして、ザルを持っていくと、それを1箇所見つけただけで、ザルがいっぱいになるようなことが30年前まではあったんです。このごろは、その山主さんも、うちにマツタケをほとんど持ってきてくれんようになりましたし、全体的に少なくなっていると思います。



### マツタケが消える秘密

マツタケが採れなくなってきた原因は何なのでしょう。

マツタケは、だいたい20歳から55歳ぐらいまでの松の新しく出た根に、マツタケの菌が出来まして共生するんですが、この辺の山の松の木も古くなりましたのと、サイセンチュウ病が出てきたということ、一番悪いのは腐葉土が増えたことで、マツタケが本当に出にくくなりました。

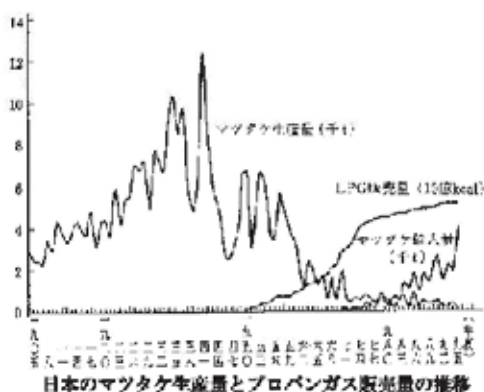
人がみんな山へ入って、柴を刈ったり、落ち葉を拾ったりして、おくどさん(かまど)へくべて、ご飯を炊いたり、おかずをつくったりすることに使われていた時代は、結構マツタケがよく出ていたんです。そやけど、そういうことがなくなってから、山へ落ち葉がたまり、その落ち葉が腐葉土として蓄積されてきたことで、マツタケが出にくくなりました。それと、マツタケは雨とも関係が深いんです。山へ入って土を掘りますと、30センチ以上濡れている年はマツタケが出やすいんですけど、少々雨で5センチ、10センチ、15センチぐらいやったらマツタケは出にくいんです。





## 忘れられた国産マツタケの味

かつて人が山を利用することで、マツタケがたくさん採れる環境を生み出していました。昭和30年代に、薪から石油などの化石燃料に変わる、いわゆる燃料革命が起こりますが、国産マツタケの生産量の推移もそのことをよく表しています。日本人はマツタケが大好きなので、国産マツタケが減った分、外国産マツタケの輸入量が増えています。しかし、このまま国産マツタケが減り続け、採れなくなってしまうのもいいのでしょうか。



出典)「新特産シリーズマツタケ果樹園産地で殖やす育てる」  
伊藤武・増瀬剛一著、(社)里山造村文化協会

マツタケが甘いということをご存知ですか。田舎で育った方でも、マツタケが甘いことをご存じない方がほとんどです。マツタケは手を丸くしたぐらいの笠6本で、だいたい1キロなんです。その笠から4センチ下ぐらいまでの茎が、ものすごく甘いんです。京都の方は、マツタケが甘いということをご存じない人が多い。採ってか

ら、せいぜい1~2時間以内にお召し上がりいただいたら、甘さは残っています。



ほかの野菜でも、キュウリでも、ほんまに畑でちぎって、すぐにかじったら甘く感じますし、ネギのネギ坊主というて、前に種みたいのが出来るときがありますけど、その下の茎も畑で食べたら甘いんです。そのようにもう、ほんまに採れたてというのが、いかに甘いかということ。来年マツタケを山で見つけれたら、生ではおいしくないですけど、ちょっと火であぶり、ぬくくなったぐらいがおいしいですから、ぜひ塩焼きなどして試していただきたいと思います。

マツタケには“甘さ”というあまり知られていない味わいもあるようです。国産マツタケが減ると、ますますマツタケの甘さを知る機会もなくなります。これは日本の食文化の一面が消えてしまうことにつながります。国産マツタケを未来に継承していくことは、今の時代に生きる私たちの役割と言えないでしょうか。

## reportage モデルフォレスト 体験ルポ

### 「まつたけ十字軍」に参加

11月6日、京都市左京区で行われた、まつたけ十字軍の活動に参加しました。この日の活動はマツタケ探しです。10時半頃から山に入りマツタケを探しますがなかなか見つからず、一旦引き上げましたが、粘っていたメンバーの一人が大きなマツタケを1本採ってきました。とたんに歓声が上がります。夏も冬も、雨の日も晴れの日も、3年近く山の手入れをしてきたみんなへの、山からのご褒美のように思いました。

ここでは、山からの恵みを有効に活用します。間伐やマツ枯れのマツを薪として利用したり、手入れで取り除いた腐植層を肥料として田畑に入れ、米や野菜づくりもします。お昼に振る舞われたご飯の食材は、ほとんど活動地の田畑で採れたものです。

竹林の手入れもされており、春にはタケノコの収穫も楽しむとか。地元の人からも大変喜ばれており、子供たちが遊びに来たりもするそうです。かつての里山の営みがここにはあり



まつたけを中央に笑顔の皆さん

ます。気さくな方ばかりなので誰でも気軽に参加できます。参加希望の方はこちらへ。

「まつたけ十字軍」ブログ  
<http://blog.goo.ne.jp/npoiroem>



## 第5回森林整備 体験教室(間伐)



9月15日に府民の森ひよで会員を対象とした間伐体験教室を開催しました。時折雨の降る不安定な天気でしたが、当日は37名の参加がありました。午前中に間伐の必要性や作業の説明を聞いた後、林内に入って間伐を行いました。倒した木の枝払いや玉切り等の作業までしっかり体験しました。午後からは昼食に亀岡牛のバーベキューを楽しんだ後、隣接の郷土資料館で、薪を使っていた時代の暮らしぶりなどを見学しました。

### ■会員の活動■

#### 京都銀行が植樹祭を行いました

10月13日に嵐山で、京都銀行の柏原康夫頭取(当協会理事長)をはじめ役員とその家族に加え、嵐山東小学校の児童・保護者、近隣の自治会の方々など合わせて約800人が参加して、シラカシなど51種類、約4,000本の苗木を植樹しました。「京銀ふるさと森」が府内の防災環境保全のモデルとして立派に成長してくれることを期待したいと思います。



## 発見! 森のお宝探しクイズ

森のお宝、どんぐりは、なるべく落ちてすぐのものを拾って植えてみよう。2-3センチの土をかけて水やりをすれば、芽が出てくるよ。どんぐりの種類は、帽子の形で見分けるのがコツ。それぞれの問いに合う木の名前を、右の①~④から選んでね。

問1



問2



問3



問4



①アベマキ もじやもじやの帽子を持つよ。厚い樹皮は、コルクの栓にもなるんだ。

②スゲジ どんぐりが成熟するまで帽子で覆っているよ。炒って食べてもおいしいよ。

③コナラ うるこ状の帽子を持つよ。紅葉がきれいだよ。

④シラカシ しましまの帽子を持つよ。公園によく植えられているよ。

★正解者には、抽選で10名様に、間伐村卓上カレンダーをプレゼント!住所・氏名と答えを記入して、E-mailかFAX、郵送で下記の宛先までご応募ください。締切:1月末日

### 数字の答え

問1 イ 問2 エ 問3 ア 問4 ウ  
多数の回答を頂きました。当選者には、お礼をもってかえさせていただきます。

## 竹の環プロジェクト

10月28日に京都大学桂キャンパスで、約300人が集まり、竹林資源の有効利用を実践する竹の環プロジェクトが行われました。午前中は、京都大学の尾池総長や柴田教授より竹に関する講演があり、参加者は竹林と地震の話や竹のあまり知られていない性質などの話に聞き入っていました。午後からはキャンパス内の竹林での伐採体験やその竹を使った竹細工、ベレットスプーンなど、竹さんまの一日でした。



## びわ湖環境 ビジネスメッセ2007



10月24日から3日間、滋賀県長浜ドームで開催された「びわ湖環境ビジネスメッセ2007」に出展しました。メッセは、出展者数286者、来場者数37,350人と盛況のうちに終わり、多くの来場者に京都モデルフォレスト運動をPRすることができました。

### Q&A

## どうして間伐が必要なの?

森林には、原生林といわれる自然のバランスによって維持されているものもあれば、人が利用することで維持されているものもあります。日本の森林のほとんどは、古くから人が建築材や燃料、肥料など、生活の必需品を得るために利用してきた森林です。木を使う民族だった日本人は、木を切る量と木が成長する量とのバランスを取りながら、森と共生してきました。

しかし、燃料革命や林業の低迷により、これまで利用してきた山が放置されるようになりました。特に、スギやヒノキの植林地は、放置すると隣り合う木が日光を求めて上へ上へと伸び、高いところで枝葉を重なり合せて、暗い森になります。そうすると、地表に草木が育たず、地肌が露出して、雨が降ると土砂が流れやすくなります。また、草木や果実を必要とする生き物が住みにくくなり、生物の多様性が損なわれます。

日光を独り占めしている木を間伐し、日光を林内に届かせることで、下草が生え、水を蓄え、多様な生物が住む豊かな森林となります。

## 読者の声大募集!!

読者の皆様からのお便りを募集します。森に関することや本誌の感想などをお待ちしています。ページ下の当協会連絡先宛てに「以森伝心読者の声」と明記して、FaxまたはE-mailにてお送りください。頂いたお便りは、誌面で紹介する場合があります。

発行:社団法人 京都モデルフォレスト協会 \*入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入飯ノ内町 京都府農林水産部 林務課内

Tel & Fax:075-414-1270 URL: <http://www.kyoto-modelforest.jp> E-mail: [kyomori@kyoto-modelforest.jp](mailto:kyomori@kyoto-modelforest.jp)

企画・編集:株式会社Hibana 平成19年12月発行